

7月の全国の平均気温はこの100年余りで最高を記録し、「地球沸騰化」ともいわれる暑さだ。最近では電気料金の上昇もあり、酷暑を乗り切るためのアイデアやグッズが欠かせない。ミレニアルZの「冷活」は、ただ暑さを和らげるだけでなく、プラスチック製の「快適さ」を求める傾向がある。

酷暑乗り切る今どきの「冷活」



携帯扇風機は定番だが、今年はコンパクトな製品に買い替えたという声も聞かれた

「涼しさ+α」のグッズで外出

プラットフォームサービ対策のためにどんなアイテムが多かった。同じく20代は「デオウォーター」、30代が5月に実施した「暑さ対策」に関する意識調査によれば、「冷却シート」という回答が目立った。逆に20代の「携帯扇風機」の回答が40代以上に比べて、夏の外出時に暑さとの対策が40代以上に比べて、帽子着用率は低かった。花王が3

携帯扇風機はすっかり定番となったが、今年は「買い替えた」という声が増えた。最近はおしゃれでコンパクトなものが増えており、24歳の女性はスマホのようサイズと形状のスクエア型を購入。「遠目には扇風機と分かっていく形状が気に入っている。軽くて薄く、首から下げても邪魔ならず、バッグの中でも邪魔にならないと評価する。汗を拭いたり肌を冷や

バッグは冷蔵庫に入れて冷やす」と、季節に合わせたケアを怠らない。帽子を着用しない理由としては、「ヘアスタイルが崩れるから。特に前髪(23歳の女性)という声があがった。「帽子の中に熱がこもって蒸れたり、額に跡が付くのが嫌」という30歳女性は、頭皮スケーラーやヘッドスクラブを使うようになった。シートなどのスクラブ入りで、毛穴の汚れを除去するものだ。「スリッパを履くLUSHの全身用シャワースクラブを前から好きで使っているけど、今年はさらに頭皮スクラブという新しい頭皮専用商品が出始め話題になったから買った」という。グッズに頼らない冷活で

は、「暑すぎて寝てられないので、超早起き」という声も。「休みの日に近所の朝8時から開いているペーカリーカフェに行き、本を読みながらモーニングを食べる。涼んだ後ゆっくり散歩して、暑くなる前に家に帰っても9時半で、1日を長く使える」(30歳の女性)。24歳の女性も「星乃珈琲店のモーニングは今年、種類が増えて充実しているのだから利用している」と話す。涼・冷機能に加えて、見えや美容・健康も意識したグッズを選び、家の中に閉じこもらずに、快適に過ごす。ミレニアルZらしい生活スタイルといえる。(フォームブランニング代表 中村泰子)